



ここから始まる社会の変革 ワーク・ライフ・バランス



1960年代から少子化に悩む欧米諸国では、「働く女性の仕事と家庭(子育て)の両立支援」から、性別や年齢に関係なく、労働者の仕事と生活全般のバランスを支援する「ワーク・ライフ・バランス」という考え方が広まっています。生活全般の中には、子育てや家庭生活だけでなく、地域活動や趣味・学習などあらゆる活動が含まれています。

「超少子化国」である日本は、1989年の合計特殊出生率「1.57ショック」以降、育児休業法、エンゼルプラン、新エンゼルプラン等が策定され、「仕事と子育ての両立支援」の環境整備が行なわれてきました。しかし、出生率は低下し続け、一連の施策が効果を上げていません。

統計によると、「女性は子どもができて働き続けたほうがよい」と考える人の割合が、男女ともに高くなっていますが、30代・40代の女性の3人に1人は結婚を機に「体力・時間的に厳しかった」と、退職しています。出産で仕事を辞める女性も多く、出産1年前に仕事をしていた女性の7割近くが、出産半年後には無職となっています。

そんな女性たちも子どもが中学生以上になると、9割以上が働くことを希望します。多くは「フルタイムで、残業のない仕事」を希望しますが、現実には働いていない人の割合が高く、働き方もパート・アルバイトが多くなっています。

男性が家事・育児・介護等にかかわる時間は、1日30分程度ですが、「仕事優先」を希望する既婚の男性はたったの約2%しかなく、32%の男性は「仕事・家事・プライベート」を両立したいと思っても、現実には5割以上の方が「仕事」を優先しています。父親の育児参加への希望も高く、子育て中の男性の約7割は仕事と同じくらい育児にかかわりたいと考え

ています。

働く人の「長時間労働」は、心身の健康に悪影響を及ぼし、労災事故や過労死等を招き、本人や家族にとってはもちろん、社会的にも深刻な問題であり、多くの人が「このままでいいのか」と疑問を持ち始めてもいます。

一方、日本の労働生産性(就業者数・労働時間当り名目GDP)は、アメリカの7割程度、主要先進国の中で最低水準にあり、働く人の意欲を高めて、生産性の高い効率的な働き方に転換する必要があります。

国全体の人口が減少し、人材不足が見込まれる中で、女性だけでなく男性も含めた「働き方の見直し」は必然です。「働き方の見直し」という視点は、子育てにとどまらない「生活と仕事」の調和、バランスを考えることです。

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」は、すべての労働者にとって働きやすい環境を整えることにもつながります。企業にとっては、個人の希望や必要性に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度を高め、優秀な人材が確保でき、定着させることにもなります。すでにワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる企業からは、従業員の意欲が高まり、生産性の向上や優秀な人材の確保につながっていると報告されています。

「ワーク・ライフ・バランス」がめざすのは、男性であれ、女性であれ、すべての人が職場や家庭、地域社会で責任を果たしながら、多様な活動に従事でき、自らの能力を十分に発揮し、豊かさを実感できる社会です。個人の多様性が生かせる社会をめざして、政府や企業だけでなく、私たち一人ひとりが、自らの問題として考えていかなければならない課題です。



凹んだって
へっちらら!

へこたれない 女の生き方指南

2007年3月4日開催の「凹んだってへっちらら！へこたれない女の生き方指南」と題した落合恵子さんの講演は、女性の生き方、介護、人権、選挙、ニート、自殺など多岐に亘りました。参加者の多くが目を潤ませて聞き入ったお話の一部をご紹介します。

今日、私がいただいたタイトルは、「へこたれない女の生き方指南」ですが、人間、時にはへこたれてもいいんですよ。

私の髪型すごいでしょ。天に向かって立っている、怒髪天を衝く、という髪型ですが、実はパーマをかけているだけ。一番楽な髪型です。上の方まっ白。「何で染めないのですか？」と、よく聞かれます。リア・ロバックさんという女性が、「私のしわは私の人生の成長の証です」と言っています。「私のしわは私の成長の証」と言える人生は素敵です。ですから、私の白髪は、「私が私を生きてきた証」です。

◆◆◆◆◆◆◆◆

私の大好きなジュディ・スモールという、オーストラリアのシンガーソングライターがいます。彼女はある日、思います。世の中を本当に平等で、人権のある世の中に変えていくため、自分の一番得意な方法は何かしら、と。彼女が思いついたのは、もともと歌が大好きなので、シンガーソングライターになることでした。この指とまれって手を挙げたときに、私ドラムスやる、私ピアノやる。私レコード作るときにジャケットの絵を書く。私こういうことやる、お手伝いするって、女たちがわーっと集まってきたのが、40年ぐらい前です。彼女たちの思いをすべて歌に託して、できあがった曲がたくさんあります。

そのひとつが、「マザーズ(母親たち)、ドーターズ(娘たち)、ワイブズ(妻たち)」です。長い間、娘であり、妻であり、母であり、受け身に生きること、ひかえめに生きることを教えられてきた。そして、受け身に生きること、ひかえめに生きること、従順に生きることを本当に一生懸命やってきた。そんな母の世代は幸せだったでしょうか、という問いかけを含んだ曲です。

世界各国共通の娘であり、妻であり、母である女の人生を、もう繰り返さない、という娘の叫びは、私の叫びでもあります。あなたの叫びも、そうかも知れません。若いとき、私は母親や祖母に、何で戦争に何の反対もしなかったのと、聞きました。でも考えたら、お母さんたちは選挙権を持っていなかった。

今は違います。今、その1票をどう使うかで社会は大きく変わ

ります。大事なことは、健康的にバランスをとることです。バランスがとれていないから、格差はどんどん大きくなっていく。バランスがくずれているから、より多く持っている人は、さらにより多く持つ側に行き、より少なくしか持っていない人はより少なくしか持てない人生になります。そこを変えなければ、と思います。

日本の女性はとても優れていますが、どこかで「ちょっと控えめに」が、まだ残っています。みんなの中で一人だけ「私はそうは思いません」と手を挙げるとき、まわりを見回して黙ってしまいます。男性もそうです。そこをもう一歩突破したときに、日本は変わっていくと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆

私は在宅で84歳になる母親の介護をして、まもなく7年目の春をむかえました。言葉にすると軽やかですが、現実は大変です。正直、並大抵ではありません。もうへとへとになってしまうこともあります。外に出るときには、自分自身に言います。介護で疲れた顔のまま外に出たら、母に失礼、私にも失礼だ。出て行く時は口紅をつけて行こう。顔色が悪かったらほっぺたにちょっと色を入れようって。そして、「お年寄りを切り捨てている社会や政治は間違っている、異議あり」と手を挙げようと思っています。

私の母親はシングルで私を生みました。当時は「ててなしっこ」という差別語が生きていた時代です。戦争中、22才の彼女は一人の男性と出会って、恋をして未婚で出産しました。15歳の時、母に聞いたことがあります。「お母さん、なぜそんなに大変な人生を選んだの？」って。

母はこう言いました。「戦争がどんどん激しくなっていて、昨日、街角ですれ違った幼馴染が、今日は焼夷弾で死んでいく。人の死が当たり前のように語られていた時代に、その年、お腹にあなたがいることを知ったの。あなたのお父さんにあたる人が大好きだった。あなたのお父さんにあたる人も、きっとお母さんのこと大好きだったと思う。二人の大好きが会って一つの命が生まれた。だったら産まなきゃいけない。子どものあなたに対して勝手なことをしてしまうけれど、産もうって心に決めた。

日に日に大きくなっていくお腹を撫でながら、お腹の中のあなたに言った。早く生まれておいで、早くこっちにおいで。生きていくことは決してたやすいことじゃないけれど、生きていくって捨てたものじゃない。だから早くおいでって、思ってた。そして、一つお願いがあるの。ある意味では、最初から差別される側の子に産んでしまって、お願いなんて随分だけれど、あなた

は産まれついて差別される側の一人だった。そのことを大事にして。世の中には生まれ、出生とはまた別の意味で差別されている人たちが大勢いる。その人たちと柔らかく手をつないでいけるあなたになって。産まれについてあなたが差別されなくなったとき、自分はそれでいいではなくて、まだ差別されている人が大勢いるなら、その人たちそれぞれと、柔らかく手をつなげる人に成って欲しい。それだけお願い」って、かなり大きな宿題をもらいました。



人の権利と書いて人権です。「人権」という硬い言葉を、私は「人権とは誰の足も踏まないこと。同時に人権とは誰にも自分の足を踏ませないこと。そういう約束と実行の中で、『人権』という花が咲きます」と言い換えています。

人間は一人一人違います。違って当然。その違いから学びあうことが人間にとって豊かさになっていきます。国同士の関係もそうです。例えば在日外国人の方々に対する差別はまだ生きています。違いから学ぼうとしない姿勢から生まれるのでしょう。男性・女性と言え、もちろん女性差別があります。しかし、表裏一体のところでは男性差別もあります。

セクシュアリティで言えば、男性・女性という枠に入りきらない方もいます。そういった方々も切り捨てないで、違いから学ぶ。そんな風に変わってほしいという想いがある、「難しいことを考えないでいいから、好きな本に出会ってボーッとする瞬間を持ってね」と、子どもの本の専門店クレヨンハウスをスタートさせました。人権という言葉を使う・使わないに関わらず、子ども時代に豊かな人権感覚を身につけてもらいたいと思います。



私は年を重ねることを恐れてはいません。年を重ねることによって、従来言われてきたように、女の価値が下がるとは私は全く思いません。そう思っている男たちと付き合いたいとも思わないし、話をしたいとも思いません。けれども、女性をどういう風に位置づけるかによって、その人の人権意識が露呈されます。

ただ一つだけ年を重ねることによって切ないことは、大好きだった先輩を見送らざるをえない寂しさがとても強くあります。その中の一人に、素敵な言葉を残してくださった、詩人の石垣りんさんがいます。

高等小学校を卒業した石垣さんは、「女に学問はいらん」と言われました。おうちの事情もあったのでしょう。13歳か14歳で銀行に入りました。仕事に優劣はありません。しかし、違う仕事を望みながら、女の子であるということや学歴の問題だけで望んだ仕事に就けなかったのは、やはり差別だと思います。その結果、彼女の仕事は来る日も来る日も来る日も銀行中の湯飲み茶碗を洗い、誰かが汚した灰皿を洗うという仕事をしました。定年を迎えるまで。

けれども、途中で彼女は言葉を通してものを書くことによって、自分の想いを表現するという方法を覚えます。素晴らしい作品をたくさん書きました。

「落合さん、私はね、言葉って二通りの使い方があるような気

がします。たくさんあるけど、おおざっぱに言うと二通り。一つは、ずたずたに切りさかれた心を、そっと抱きしめてくれる包帯みたいな、そんな役目を言葉は果たしてくれる。もう一つは、ずたずたに切りさかれた心を、更にはずたずたに切りさくような力にむけて、どんなに小さくても、ヤイバを突きつけるときの、そのナイフのような闘い方もできるはず。私は、その両方のナイフを使いたい。言葉で包帯とナイフと両方使える、そういう詩人になりたい」とおっしゃっていました。

亡くなったとお知らせを受けたとき、彼女の「表札」という詩の最後の2行、「精神の在り場所も/ハタから表札をかけられてはならない/石垣りん/それでよい」を、私は心の中で「石垣りん/それがよい」に変えました。形として、どこかに属していても、会社員であっても、心だけはどこにも属させない。「私は私です」という生き方を、見事にされた方でした。



私の青春の思い出の曲に、「You got a Friend」という曲があります。可能な限り自立していく。男でも女でもみんなそう。でも、どうしようもないとき、疲れたよって言いあえる私たちでありたい。それが自立。相手がしんどい時、手を差し伸べるためにも自立していたい。しんどいとき助けてって言える私たちであろうね。ここにあなたの仲間がいるよっていう歌です。

今、年間33, 300人以上の中老年男性が自殺しています。歴史になかったことです。それだけ男たちも追い詰められている。女が女として控えめについて言われる社会は、そのまま男たちに、「あなた外へ行って頑張って獲物を捕ってらっしゃい」って言うようなものです。そういう部分もしっかりと見つめて、本当の意味で、共に生きてゆこうって社会ができれば、素敵だと思えます。

誰かが光の中にいるために、誰かが犠牲になって泣いている。自分が輝くために、他の人に影をつくったり、人の足をひっぱる人生は間違いです。今、世界で起こっていることと、私たちが自分自身として輝いて生きることは別のことではない。地球規模でも、日本という国の中でも、大田区という地域社会の中でも、家族の中でも、共に生きていく。



私の夢は、女の全国組織のかけ込み寺です。本部みたいなものがあって、普段の活動は自由にやっていけるようなものをつくりたいと思っています。ドメスティックバイオレンスで、シェルターに入っても、その後の自立の道が見えないから戻ったり、倒れてしまう女性がほとんどです。

「へこたれない女の生き方」ですが、私はへこたれません。怒り続けていかないと、どど一つと違う方向へ行ってしまう気がします。私たちの声は、本当に灯籠の斧だという思いはあります。

私は、洗って乾けばそのまま何にもしないで済む髪型をしています。これからも、「怒髪天を衝く、でも怒髪地を潤す」怒り方をしていきたい。もう一回、大暴れの季節をむかえて、髪をもっと逆立てて生きていこうと思います。(文責 田中きょうこ)

会館設立30周年記念 エセナフォーラム2007

6月30日(土) 14:00~20:00

☆スペシャルトークイベント

残間里江子さん VS 三田誠広さん

「今のニッポンを形づくった団塊世代に贈る〜
もっと² 楽しく生きるコツ」

14:00~16:00

3階多目的ホール

☆会館設立30周年記念交流会

16:30~17:30

2階談話コーナー 参加費 500円

☆映画上映会「フラガール」

18:00 上映開始(17:30 開場予定)

3階多目的ホール 参加費 300円

7月1日(日)ワークショップ 10:00~16:30

- ① 体験! 中屋映子のカラーセラピー第1回(10:00~12:00)
- ② ベストカラー・コーディネイトセミナー(10:00~11:30)
- ③ パパ大好き! おとうさんといっしょ(10:30~12:00)
- ④ 夢を叶えるマネープランの作り方(10:30~12:00)
- ⑤ みんな集まれ! 子どもから大人まで楽しむダンス(12:00~13:30)
- ⑥ 仕事と子育ての両立支援施策のポイントと保育園・保育士の役割(13:30~16:30)
- ⑦ 私はあきらめない! 虐待と闘う少女たちの現実を考える〜ストリートチルドレン疑似体験ワークショップとビデオ上映(13:30~16:30)
- ⑧ 知っておきたい私の年金(14:00~16:00)
- ⑨ 体験! 中屋映子のカラーセラピー第2回(13:00~15:00)
- ⑩ すっきりした「ワタシらしさ」の実現をめざして(13:30~15:00)

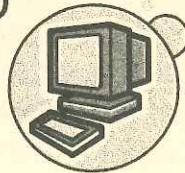
再チャレンジ応援ナビ シリーズ③

女性限定再就職のための
10日間集中パソコン
実践講座 全10回25時間

7/23~8/30

(8/13・8/16除く毎週月曜、木曜)

9:00~11:30



ワードによる文書作成(7/23~8/6)

- ①7/23(月) パソコンの基礎、文字の入力、特殊記号、保存の方法
- ②7/26(木) ページ設定、コピー&ペースト、文字装飾、印刷
- ③7/30(月) 表の作成、罫線ツールバーの使用法
- ④8/2(木) フリータイピングソフトのダウンロード、My 職務経歴書作成(キャリアアドバイザーによる添削あり)
- ⑤8/6(月) ヘッダー・フッター、テンプレートの活用、ショートカットキー

エクセル操作(8/9~8/27)

- ⑥8/9(木) Excelの基礎、データ入力方法、シートの活用
- ⑦8/20(月) オートフィル操作、データの並べ替え、コピー、ウィンドウ枠の固定
- ⑧8/23(木) 計算式の入力、印刷設定
- ⑨8/27(月) よく使用する関数(合計、平均値、最大値等)、グラフの作成
- ⑩8/30(木) インターネットの活用、情報検索方法

- 開催場所: 大田区立蓮沼中学校(東急池上線・池上駅から徒歩7分)
- 参加費: 1回1,000円(初回で全回分一括払い)
- 定員: 再就職希望の、パソコンで文字入力ができる女性25名
- 申込締切: 2007年7月5日(木) 必着
- 申込方法: E-MAIL (escena@escenaota.jp) で。

- ①パソコン実践講座 ②〒住所 ③名前(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号 ⑥200字程度の応募動機を明記。

*保育はつきません。

夏休み! そば打ち 和風づくり デイキャンプ
父子チャレンジ
~真夏の3連発~

1. 手打ちそばにチャレンジ!

日時: 7月22日(日)10:00~13:00

場所: エセナおおた 2階 和室&調理室

費用: 1組1,500円

2. 和風づくりにチャレンジ!

日時: 8月5日(日)10:00~12:30

場所: エセナおおた3階 多目的ホール

材料費: 凧1個につき1,000円

3. 家族みんなでデイキャンプにチャレンジ!

日時: 8月19日(日)10:00~14:00

場所: 平和島公園キャンプ場(小雨決行)

野外でバーベキュー(家族で参加できます)

費用: 大人1,000円、小学生800円、未就学児500円

- 定員: 3回すべて出席できる小学生と男性の保護者15組
*保護者が男性であれば誰でも申し込みできます。
3回目のデイキャンプは家族みんなOKです
- 申込締切: 2007年7月13日(金) 必着
- 申込方法: 往復はがきに①「父子チャレンジ」 ②〒住所 ③参加者全員の名前(ふりがな)と参加者全員の年齢 ④電話番号を明記。

大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」

〒143-0016 東京都大田区大森北4-16-4

電話 03-3766-6587 03-3766-4586

FAX 03-5764-0604

e-mail escena@escenaota.jp

HP URL http://www.escenaota.jp/

メルマガ escenaotamail@yahoo.co.jp

指定管理者 NPO 法人 男女共同参画おおた

